

正常骨と異常骨のカットオフ値の検討に関する情報公開

1. 研究の対象

骨転移の検索目的で、2008年4月1日から2019年5月9日までに当院で骨シンチグラフィ検査においてプラナー撮影、Single photon emission computed tomography (SPECT) 撮影を行い、かつ¹⁸F-fluoride Positron emission tomography/computed tomography (PET/CT) 検査、¹⁸F-FDG PET/CT 検査を行った方

2. 研究目的・方法・研究期間

骨転移の検索を目的とした核医学検査として骨シンチグラフィが広く行われていますが、当院ではそれに加えて¹⁸F-fluoride PET/CT 検査、¹⁸F-FDG PET/CT 検査も行われています。SPECT/CT 画像・PET/CT 画像を用いることにより、視覚評価のみならず、定量指標 standardized uptake value (SUV)を用いた定量評価が可能となります。この SUV を用いることで、正常骨と骨転移病変を数値的に評価することができますが、現在その両者を区別するための SUV 値が一般的に決定されていません。そこで本研究では、¹⁸F-fluoride PET/CT 検査・¹⁸F-FDG PET/CT 検査・骨シンチグラフィの画像を用いて全身における骨腫瘍や骨代謝疾患、骨折等の骨疾患がない骨(正常骨)と骨腫瘍のある骨(異常骨)の SUV を算出し、各椎体の SUV を比較し、正常骨と異常骨のカットオフ値を決定することを目的としています。

方法としては、診療データ(カルテ等)より、骨転移の検索目的で、骨 SPECT 画像・¹⁸F-fluoride PET/CT 画像・¹⁸F-FDG PET/CT 画像を撮像された骨転移のある患者を選択し、後ろ向きに研究します。骨領域に関心領域を設定し、SUV を算出します。得られた SUV の平均値と標準偏差を求め、各骨領域の SUV を比較します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：骨シンチグラフィ、SPECT 画像、PET 画像等

情報：病歴、年齢、性別、治療経過等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

しかしながら、解析終了後または学会・論文での発表後には、データを削除できないことがあります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻

名古屋市東区大幸 1-1-20

TEL 052-719-1504

研究責任者:

名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻医用量子科学講座

教授・加藤克彦

名古屋市東区大幸 1-1-20

TEL 052-719-1504

katokt@met.nagoya-u.ac.jp